

2026 年 7 月 27 日

町田市長 稲 垣 康 治 様

町田市廃棄物減量等推進審議会
会 長 篠 木 幹 子

2025 年度第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画及び
アクションプランの進捗点検の結果について（報告）

2026 年度第 2 回（2026 年 5 月 25 日開催）、第 3 回（2026 年 7 月 27 日開催）町田市廃棄物減量等推進審議会において、2025 年度の第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画およびアクションプランについて進捗点検を行いました。その結果を、下記のとおり報告します。

記

1 第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画の全体目標

2026 年 3 月（2025 年度）に一部改定した「第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画」において、2030 年度までの全体目標として、以下の 3 つを掲げています。

全体目標①「1 人 1 日当たりのごみ排出量を 2019 年度比で 15%削減すること」

全体目標②「総資源化率を 40%まで高めること」

全体目標③「温室効果ガス排出量を 2019 年度比で 30%削減すること」

2 2025 年度のごみ・資源の排出状況

（1）全体目標①

	2025 年度実績	2019 年度 （基準年度）比	2024 年度 （前年度）比
1 人 1 日あたり のごみ排出量	694 グラム	▲74 グラム （▲9.6%）	▲14 グラム （▲2.0%）
総ごみ量	109,074 トン	▲11,520 トン （▲9.6%）	▲2,193 トン （▲2.0%）

＜総ごみ量の内訳＞

- ・「燃やせるごみ（家庭系）」は、59,598 トン 2024 年度比▲837 トン（▲1.4%）
- ・「事業系ごみ」は、17,595 トン 2024 年度比▲42 トン（▲0.2%）
- ・「燃やせないごみ・粗大ごみ・有害ごみ」は 9,888 トン 2024 年度比▲465 トン（▲4.5%）

(2) 全体目標②

	2025 年度実績	2019 年度 (基準年度) 比	2024 年度 (前年度) 比
総資源化率	31.3%	+0.1 ポイント	+0.2 ポイント

(3) 全体目標③

	2025 年度実績	2019 年度 (基準年度) 比	2024 年度 (前年度) 比
温室効果ガス 排出量	40,322t-CO ₂	+6,322 t-CO ₂ (+18.6%)	▲2,533 t-CO ₂ (▲5.9%)

3 評価について

第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランの進捗点検では、5つの基本方針に基づき、各取組施策の進捗状況の確認を実施しました。進捗点検においては、2025年度のごみ量の傾向だけでなく、施策を展開するまでの過程や取り組み内容等を考慮して評価を行いました。

評価の基準は「A」「B」「C」「D」の4段階とし、各委員の評価の平均値を、審議会としての評価としました。2025年度の進捗点検結果は別紙のとおりです。

2025年度は、2024年度と同様に総ごみ量（資源・集団回収量を含む）が減少しました。家庭系の燃やせるごみ・燃やせないごみが、引き続き減少傾向にあることに加え、事業系ごみも減少に転じました。今後予測される社会的課題に対応し、今後も総ごみ量の減少傾向が続くよう、さらなる施策の工夫を求めます。

町田市廃棄物減量等推進審議会
2025年度第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン事業計画の評価

＜評価基準＞

- 【A】⇒ 大幅に取組が進んでいる（引き続き取り組む）
 【B】⇒ 取組は進んでいる（もう少し取組を強化し進める）
 【C】⇒ 改善（取組内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
 【D】⇒ 新たな取組を検討し進めていく

※各委員からの評価を点数化（A=4,B=3,C=2,D=1）し、平均点により評価

※平均点による評価は次のとおりとする。A>3.5≧B>2.5≧C>1.5≧D

【基本方針1】		評価理由	
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます			
評価	B (3.27)		・目標を概ね達成しており、一般廃棄物の減量や資源化に向けた協働等の地道な取り組みは理解できる。しかし、これらの取り組みが市民等、特に高齢者に十分に浸透しているとは言えず、さらなる取り組みの強化が必要である。 ・活動回数を目標として立てるだけでなく、ごみ量自体の削減目標を示したうえで、活動の結果としてごみの減量や市民の意識改革がどの程度改善したかをはかるチェック指標があるとよりよいと感じる。 ・市民との連携は頑張っているように思うが、事業者との連携が不足しているように思う。 ・活動支援を通して、多くのイベントに3R市民リーダーが参画したという点は素晴らしい。また、大学と連携した取り組みも具体的に進めている。さらなる行政の支援と市民協働が進むことを期待する。
【基本方針2】		評価理由	
家庭系ごみの減量を進めます			
評価	B (2.64)		・さまざまな機会・方法を使って市民への周知に努めていることは大変評価できるが、目標を達成できなかった項目についてはその原因を追及していただきたい。 ・生ごみの発生抑制について、市民への啓発、呼びかけは頑張っているように思う。一方で、市民への呼びかけだけでは限界がある。 ・重点施策である、プラスチックごみの発生抑制、資源化の推進を強化していただきたい。 ・容器包装プラスチックの分別協力率が、2024年度から目標値を下回っているため、取り組み内容を検証し、効果的な取り組みとなるよう、改善が必要である。
【基本方針3】		評価理由	
事業系ごみの減量を進めます			
評価	B (2.73)		・大規模事業所への立ち入りや搬入物検査に基づく指導と、排出事業者等に向けた講演会の回数は、目標値に達している。 ・事業者に向けて指導や講習会、情報提供を行い、実際に事業系ごみの削減という形で効果が出ている点は評価できるが、フードバンク関連で足踏みがみられる。 ・概ね、実績値が目標値を上回っており評価できるが、事業系生ごみの削減に関しては、目標値に対して実績値が低く評価できない。アクションプラン策定時の目標設定に無理があったものとする。 ・事業系可燃ごみの排出量は、前年度比微減となっているが、市の事業者数や従業者数が示されておらず、実際に効果的に減量できているか分からない。 ・市庁舎から排出されるごみのうち、紙類の混入が減少していることは評価できる。さらなる混入削減を進めて欲しい。

【基本方針４】 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます		評価理由	
評価	B (2.91)		
【基本方針５】 社会的課題への対応を強化します		評価理由	
評価	B (3.45)		